

ふたつのアクセント

著者	工藤 敦男
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 1: 23 (1980)
発行年月日	1980-09-20
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022345

修飾することば修飾されることば

信州大学講師 細川 英雄

(改題の論考「日本語の主語について」として2ページに掲載)

ふたつのアクセント

長野放送 工藤 敦男

長野県のことばは、共通語に近いといわれる。しかし例えば細かいアクセントについてみると共通語との間に相違がある。

最近、交通、マスコミ、電話などの普及発達の影響で、長野県の特に関西人々のアクセントが共通語化されるという現象が著しいがそれでも、まだ共通語との間に相違がみられる。(ここで長野県とはごく大ざっぱに、東北信を指す。以下同じ。実際には東信と北信とはアクセントの相違がある。)

先ず、ほんの二、三ではあるが例を挙げてみると、例えば「きのこ」は、共通語でキノコ、長野県ではキノコとなる。また「こおろぎ」は कोरोギと कोरोギとの相違がある。「勢い」はイキオイとイキオイとである。同じように「楽しい」はタノシイとタノシイと

の相違がある。

次に、長野県のことばはアクセントを区別する傾向があるという点についてであるが、例えば「不幸」ということば。あの人は不幸な人だという一般の意味の場合はフコである。それが長野県では葬儀の意味で使用されるとフコーと平板化する。共通語では両方ともフコであって区別しない。また「生理」と「整理」は共通語では両方セーリであるが、長野県ではセーリとセーリとなる。「象」と「像」も、共通語はいずれもゾー、長野県ではゾーとゾーとである。

以上は共通語と長野県のことばとのアクセントの相違についての主に名詞それも普通名詞の例であるが、興味深いことに、固有名詞についてもアクセントの相違がある。先ず人名で例を挙げると「小山」は、共通語でコヤマ、長野県ではコヤマ、「桜井」はそれぞれサクライとサクライ、「武井」はタケイとタケイとである。

次に地名であるが「長野」が、地元でナガノ(東信ではナガノ)共通語ではナガノになるのはしばしば指摘されることである。同じように「伊那」は共通語でイナ、長野県でイナ、「信濃」はシナノ、シナノである。

以上発表の要点のみを記したが、最初にも述べたように、もう若い人々には認められないような相違もこの中には含まれているのではなからうか。